

ヘラウキのバランス その1 足の素材の違いがヘラウキの立ち上がりに与える影響について

ヘラウキの各パーツのバランスについて、解説していきたい。ヘラウキはボディ、足、トップの3つのパーツで構成されるが、この各パーツの長さや太さ、素材の違いがウキの立ち上がりにどのような影響を与えるのかを実験に基づき解説していく。今回は、その1回目、足の素材の違いがヘラウキの立ち上がりに与える影響について、解説していく。

浅ダナの釣りでは、ヘラウキの立ち上がりがかなり重視される。トップトーナメンターの方がカヤでウキを自作されるのも、自分のイメージどおりのウキの立ち上がりを求めているということが、理由のひとつではないだろうか。

1. 足の素材の違いがヘラウキの立ち上がりに与える影響について

前提条件は、以下のとおり。

足の素材のみが異なるウキを浮かべ、ウキの立ち上がりの違いを比べてみる。

【ヘラウキの仕様】

ボディとトップの仕様は基本的に同じ（厳密に言えば、竹足の元径が太いため、③の絞りが①、②に比べゆるやか、また③竹という素材の違いもあり、③はオモリ負荷量が若干多め。

ボディ：孔雀の羽根5. 5 mm径（塗装前）、50 mm

トップ：PCムク1. 2 mm→0. 6 mm 90 mm

① カーボン製：1. 2 mm→0. 8 mm→差し込み部1. 2 mm（塗装前での計測）

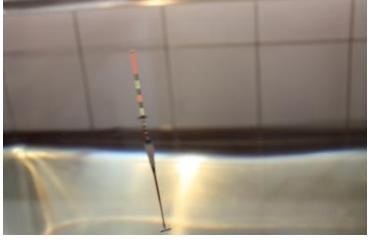
② グラスソリッド製：1. 2 mm→0. 8 mm→差し込み部1. 2 mm（塗装前での計測）

③ 竹製：2. 0 mm→差し込み部1. 2 mm（塗装前での計測）

参考1：オモリ荷重①0. 51 g、②0. 51 g、③0. 57 g

参考2：浴槽にて実験、ウキ下からオモリまで、約50 cm



カーボン製	ソリッド製	竹製
		
		
		
		
		
		



上記各画像から、立ち上がりが早い順に、①カーボン→②グラスソリッド→③竹というのが、観察できると思う。

また、立ち上がりが異なりながら、ナジムまでの時間はほぼ同一であることも観察できる。

お風呂にこもって、何度も実験を試み、シャッターを押すタイミング等の誤差はあるかと思うが、大半の画像がカーボンとソリッドは、3コマ目で立ち上がるのに対し、竹は4コマで立ち上がる多かった。

これは、①足の太さの違いによる足が受ける表面張力の差、②足の素材の比重の差が、ヘラウキの立ち上がりに影響すると考えられる。

具体的に言うと、①足の太さが太いほど、表面張力の影響を受けやすい、②比重の重いグラスソリッドやカーボンは、水よりも重いことから、一種の細長いオモリのような働きをして、オモリが高い位置でウキが立ち上がると考えられる。

もちろん、これはへら鮎がない状態であり、かつ止水なので、実釣の場合とは異なる場合もある。

ただ、この結果を裏付ける意味で、1mウドンセットで実釣を行ったところ、ソリッドとカーボンはほとんど同じような立ちあがりに感じ、竹足はまったくとした感じを受けたのも事実である。

また、1mウドンセットの実釣におけるソリッドとカーボンの違いは、カーボンのほうが、ウキが立ち上がりはじめてからの速度がごくわずか早いように感じた。

これはおそらく、素材の硬度の違いと考えられる。つまり、カーボンのほうが素材自体の硬度が高いためと思われる。

浅ダナウキで足の素材にカーボンが多用されるのも、このあたりが主要因と考えられる。

上記実験は、あくまで、尽心作を使用しての結果であり、他作者様のウキでは異なる場合があるかもしれない。

次回は、ヘラウキのバランス その2 足の長さの違いがヘラウキの立ち上がりに与える影響について解説していきたい。